

「学校閉庁日」の取組に 御理解と御協力をお願いします

北海道教育委員会では、効果的で質の高い教育活動を持続的に行えるよう、教員が心身ともに健康を保ち、誇りとやりがいをもって働くことができる環境の整備(働き方改革)に力を入れています。

長期休業期間中における「学校閉庁日」の取組は、北海道教育委員会の主導により全道の公立学校で進めています。

皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

■「学校閉庁日」とは

- 教職員が生き生きと児童・生徒と向き合うことができるよう、心身の健康を保持するため、休養を取りやすい環境を整備するものです。
- 原則として児童・生徒は登校せず、部活動も休養日とします。
- 基本的に職員が不在となるため、電話対応ができません。

緊急連絡が必要な場合は、各学校が指定する方法により連絡してください。

■「学校閉庁日」の設定期間

【夏期休業期間】

8月15日前後の3日間を基本に学校が設定

【冬期休業期間】

12月29日から翌年1月3日までの6日間

その他、学校が設定する日



お困りの事がありましたら、相談窓口をご利用ください



少年相談110番【道警】(※平日8:45~17:30以外は留守番電話)

0120-677-110

少年の非行や犯罪被害、いじめ、児童虐待等



24時間子供SOSダイヤル【文部科学省】

0120-0-78310

いじめや不安、悩み等、子どものSOS



子ども相談支援センター【道教委】

0120-3882-56

いじめ、不登校、学業・進路、教師との関係、友人関係、生活全般、家族のこと、育児、LGBT、性被害、ヤングケアラーなど

なぜ、学校の働き方改革が必要なのか？

多くの先生方は、教師という職の崇高な使命感から、「子どものためなら、長時間勤務もいとわない。」という想いで一生懸命働いています。

しかし、その中で先生方が疲弊していくのであれば、それは結果として「子どものため」にはつながりません。

先生一人一人が、日々の生活の質や教職人生を豊かにし、人間性や創造性を高めることは、より効果的な教育活動につながります。更に、教師という職の魅力が向上し、教師を志す者の広がりによって、教育全体の質の底上げや持続につながって行きます。

働き方改革は、北海道の教育の質の向上のために取り組んでいます。



— 学校で進めている取組の具体例 —

■部活動の活動時間の見直しや休養日の設定

1日の活動時間を長くても平日では2時間、休業日は3時間程度に設定し、週当たり2日以上休養日を設定しています。

■留守番電話による時間外対応

勤務時間外の時間帯における電話は、留守番電話や応答メッセージによる対応としています。

■メールやアプリを活用した家庭との連絡

家庭との効率的且つ即時性のある連絡体制を構築するため、一斉メールや専用アプリを活用しています。

■学校行事の精選・見直し

地域行事との合同開催や地域人材の協力による運営など、学校行事の効率的な実施や精選に努めています。

■日課表の工夫や通知表の内容見直し

会議開催日等における短縮日課の実施や通知表の所見欄の代替として個人面談を実施するなどの工夫を行っています。

■PTA会費等の振込、引き落としによる徴収

学校徴収金の収納事務の効率化や保護者の利便性の向上のため、振込や引き落としによる徴収等を行っています。

■登下校指導等における地域との連携

地域ボランティアの協力による、登下校時の児童・生徒の見守りを行っています。

■家庭訪問の保護者面談等への変更

新型コロナウイルス感染症対策や、保護者との面談時間の確保のため、家庭訪問を保護者面談へ変更しています。

■ICTを活用した教育活動の推進

成績処理等を効率的に行う校務支援システムの導入やクラウドサービスやデジタル教材を活用した授業の実施等を進めています。

■コミュニティ・スクールなど、地域との協働体制の構築

地域住民が学校の教育活動を支援する「地域学校協働活動」や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」の導入を進めています。

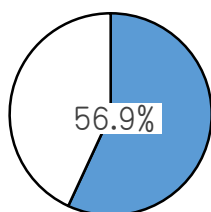
※上記は学校における取組の例であり、実際の取組内容は、各学校の状況に応じて異なります。

北海道の教育を取りまく状況

- 半数以上の教員が、規則で定める時間外勤務の上限(月45時間)を超過しています。
- 教員志願者の減少傾向が続いています。※R1年度小学校教員の受検倍率 1.5倍



時間外勤務を月45時間以上行っている教員の割合



※ 令和元年度(2019年度)教育職員の時間外勤務等に係る実態調査の結果(道教委発表)

教員採用選考検査受検者数の推移

